

研究背景

自動車業界における電動化



車室内の音環境が変化



Good 車室内の静音化が進む

Bad モータ音等が不快感に影響する

価値あるEVサウンドの創生

- ・速度感を感じる加速サウンド
- ・疲労を考慮した覚醒サウンドのデザイン



EV車室内音の空間価値の向上

研究内容

複合刺激下での主観評価

加速時において、加速サウンド、定速時において、覚醒サウンドを以下の条件で評価を実施

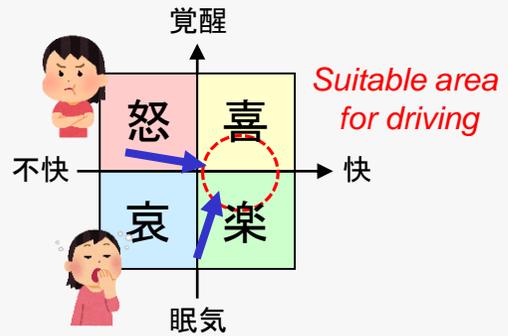
STEP 1 主観評価

STEP 2 ドライビングシミュレータを用いた運転精度の評価



生体情報を用いた客観評価

脳波による生体情報に基づき、快軸、覚醒軸の観点から感情を推定



シーンごとの運転支援

運転シーンに応じた音を提示し、快適感と覚醒感のコントロール



運転パフォーマンスを向上

